

二〇二六年一月一七日

お飾りの小判のみ込むどんどの火	なつき
鏡なす池ほとりに佇つ春着の娘	澄子
水琴窟かそけく奏づ早春賦	むべ
横断歩道福笹あげて渡りをり	うつぎ
人波のこぼす鈴の音初戎	わかば
目が合へばにつこり笑まふ福娘	うつぎ
古木愛づ冬日遍き殿の庭	澄子
大福箕掲げ門出る強面	うつぎ
大達磨目より火を噴くどんど焼き	ぽんこ
値を下げて十日戎の暦売	うつぎ
福笹の売れて手拍子弾むなり	わかば
雪吊の縄撓ませて風に耐ふ	むべ
漣の綺羅に雪吊り揺らぐやに	澄子
裸電球小判光らせ宵えびす	あひる
石灯笼濃き影引きて日脚伸ぶ	むべ

吟行後日句会みのる選

二〇二六年一月一七日